

令和5年度 地域コーディネーター等研修会

第1日目

「CS(コミュニティ・スクール)・地域学校協働活動を知ろう」

CS・地域学校協働活動A

CS・地域学校協働活動の基礎・基本と立ち上げまでのプロセス
～こどものために みんなで つなぐ 地域とともにある学校～

講義 I

文部科学省CSマイスター 西 孝一郎 氏

コミュニティ・スクールは、こどものために、みんなで、つなぐ、ともにある学校であり、その頭文字をつなげた「コミットする」とは「積極的にかかわる」「深くかかわる」「責任をもって取り組む」ことであることを教えていただきました。また、学校運営協議会の役割や設置に向けた留意点とともに、「こどものために」「みんなで」「つなぐ」「ともに」の具体についてお話いただく中で、共感、愛着、信頼の大切さを教えていただきました。コミュニティ・スクールの具体的なイメージをもち、そのよさや魅力、可能性を学ぶことができました。



CS・地域学校協働活動B

わがまちのCS・地域学校協働活動①

活動報告 I

飯田市民館 副館長 上沼 昭彦 氏
飯田市千代公民館 主事 青山 穂高 氏

長野県飯田市のCS・地域学校協働活動について御発表いただきました。住民自治の力を大切にする飯田市では、「善い地域が善い学校をつくり、善い学校が善い地域をつくる」という考えのもと、公民館長や主事が学校運営協議会の委員となり、コーディネート役として学校・家庭・地域をつないでいるところに特色があると教えていただきました。そして、千代地区の小中学校における具体的な実践についてもお話いただきました。「学校の思い」や「地域の思い」を大切にする取組は、とても参考になりました。



CS・地域学校協働活動B

わがまちのCS・地域学校協働活動②

活動報告 II

豊田市教育委員会学校教育課 学校教育指導専門員 若月 めぐみ 氏

豊田市のCS・地域学校協働活動について御発表いただきました。豊田市では、令和5年度から市内全学校にコミュニティ・スクールが導入され、それぞれの学校・地域で9年間を見通した目指す子供像が共有化され、具現化に向けた取組が行われていることを、具体的な事例を交えながら御紹介いただきました。多くの参加者が、目標やビジョンを共有することの大切さや管理職のリーダーシップと行政の支援の大切さを実感するとともに、学校・家庭・地域が力を合わせて子供たちを育むことのすばらしさを感じ取ったようです。



第2日目

「推進員の果たす役割と展望」

CS・地域学校協働活動
マネジメントB

コミュニティ・スクールでの地域コーディネーターの役割
学校運営協議会制度と地域学校協働活動 美麻小中学校での活動を通じて

講義Ⅱ・演習Ⅰ

長野県大町市立美麻小中学校 地域学校協働コーディネーター
文部科学省CSマイスター
前川 浩一 氏

長野県大町市立美麻小中学校の様々な取組を基に、「地域学校協働コーディネーター」としての自身の関わりについてお話しくださいました。地域を舞台に、子供たちの思いや願いに基づいた学習が展開され、その中で子供も教師も地域も変わっていったという実践はとても魅力的で、地域コーディネーターの役割や魅力を具体的に学ぶことができました。また、コミュニティ・スクールは地域オリジナルしかないこと、常に学ぶ姿勢をもち、活動を主体的に成長させることが大切であると教えていただきました。



CS・地域学校協働活動
マネジメントA

さあ！地域コーディネーター（推進員）をやってみよう！
～コーディネーターとして大切にしたいこと～

講義Ⅲ・演習Ⅱ

奈良市立富雄中学校運営協議会 副会長
富雄中学校区地域教育協議会 総合コーディネーター 新谷 明美 氏

校長からコーディネーターの依頼を受け、悩みながらも様々な工夫をし、学校と地域の連携・協働体制を築き上げてこられたという経験談から、地域コーディネーターとしての心構えやなすべきことを学びました。「何よりも必要な力は『楽しむ力』』というお話に、自信と今後の活動への意欲を高めた参加者も多かったようです。後半は、ミニ熟議体験を実施し、熟議の具体的な進め方や大切なポイントを実践をとおして学ぶとともに、参加者同士のつながりを深めることができました。



第3日目

「学校を核とした地域づくり、まちづくり」

地域づくり・まちづくりA

地域・まちづくりの視点から子どもの育ちを考える

講義Ⅳ

野洲市社会教育委員会委員長・元文部科学省CSマイスター 高木 和久 氏

地域づくり・まちづくりに視点を当て、先駆的事例を基に、地域づくり・まちづくりにおける大切な五つのポイントや、六つの具体的な提言についてお話しいただきました。また、子供の学びの土台、生活を支えるために、福祉の視点も踏まえた取組が必要だと教えていただきました。「子供が企画者」、「子供の声を聞くことから始める」など、子供を中心とし、子供の主体性を大切にされる講師の熱い言葉から、コミュニティ・スクールや地域学校協働活動が子供のためにあることを実感をもって学ぶことができました。



地域づくり・まちづくりB

若者の力をまちづくりに！ ～学校と地域をつなぎ、未来を創る～

講義Ⅴ

NPO法人縁塾 理事 田口 裕斗 氏

「家庭と学校と地域をつなぎ、共にイキイキとしたまちをつくる」という理念のもとで活動している縁塾の取組を御紹介いただきました。「エンリッチプロジェクト」や「キャリア教育プログラム」をとおして、高校生が地域の本気の大人たちや地元企業・団体の方と関わり、交流の大切さやおもしろさを知り、地域への理解と関心を高めていく取組はとても魅力的でした。「1人の100歩より100人の1歩」を大切にされているというお話に、ひとづくりやまちづくりのあるべき姿について学ぶことができました。



第4日目

「これからのCS・地域学校協働活動の在り方」

連携・協働の展望B

CS・地域学校協働活動における課題と展望

講義VI

岐阜大学 地域協学センター長・シニア教授 益川 浩一 氏

地域と学校がパートナーとして組織的・継続的に連携・協働できる仕組みを構築する方策や留意点についてお話しいただきました。また、これからのコミュニティ・スクール、地域学校協働活動の在り方について、羽鳥MOA学園の「絆学園」の取組を基に御説明いただきました。人間関係、「絆」の構築が必要であり、そのために、学びをとおして地域の中に人間関係を蓄えていくことが大切であること、その仕組みの一つであるコミュニティ・スクール、地域学校協働活動が全ての人々のウェルビーイングを向上させることを学びました。



連携・協働の展望A

「地域の子ども」が育つコミュニティの創造
～子どもを中心にすえた学校づくり・地域づくり～〔オンライン講義〕

講義VII

香川大学教職大学院 特命教授 野村 一夫 氏

学校教育、「学び」が変わる中、地域の大人の役割は「子育て」支援から「子育て」支援へと変わっているというお話がありました。また、少子高齢化を「地域密着人口」の増加ととらえ、高齢者と子供が地域の担い手になること、地域課題の解決のためには子供(学校)とどのように関わるかが大切であると教えていただきました。学校と地域の連携・協働のためには、地域の実情を知り、当事者意識を醸成すること、そして、何より対話から生まれる信頼関係が大切なことを学ぶことができました。



第5日目

「地域全体で子供たちの成長を支える仕組み(1)」

子供を支える仕組みB

子どもを取り巻く現状と放課後を支える人材と育成

講義VIII

静岡産業大学 教授 松永 由弥子 氏

地域全体で子供を支えるしくみが必要となる背景として、子供を取り巻く現状をお話しいただくとともに、放課後を支える人材とその育成について、第37期静岡県社会教育委員会報告書を基にお話しいただきました。人が生き、育つための環境を再構築していく必要があり、その中で、子供たち一人一人が置かれている「状況」を理解することが大切だと話されました。また、大人たちの生き様が子供たちの学習環境となること、地域の大人の生涯学習推進が人材育成につながることを教えていただきました。



第6日目

「地域全体で子供たちの成長を支える仕組み(2)」

子供を支える仕組みA

子どもたちの豊かな学びを大切にした放課後子ども教室
～東海市における放課後子ども教室の取組について～

講義IX・実地見学

東海市教育委員会社会教育課 主任 山口 弘晃 氏
主任 磯谷 麻未 氏

東海市の取組を基に、放課後子ども教室の具体について学びました。前半は、東海市教育委員会社会教育課から説明をしていただきました。東海市では、市内全小学校で週2日、全学年の小学生を対象として実施されています。募集や活動内容、放課後児童クラブとの一体的運用等について教えていただきました。後半は東海市立緑陽小学校に移動し、放課後子ども教室や放課後児童クラブの実際の様子を見学しました。子供たちや指導員たちの姿を間近で見ることで、東海市の工夫や放課後子ども教室の魅力、一体型の意義を実感をもって理解することができました。

